

# 蔵出しお宝ニュース

— 第 20 号 —

三原市歴史民俗資料館では、所蔵資料の本格的な整理・展示のリニューアルに取り組んでいます。本紙では、資料館内で長らく眠っていた三原市ゆかりの貴重な資料の解説と、行事の案内・紹介などを随時行って参ります。

## ぎだゆう ちゅうしんぐら 「義太夫と忠臣蔵グッズ展」開催

平成 25 年 6 月 29 日（土）に三原市芸術文化センターポポロで仮名手本忠臣蔵の文楽公演が行われます。この催しにあわせて資料館でも 6 月 26 日（水）から 7 月 14 日（日）まで、「義太夫と忠臣蔵グッズ展」を開催いたします。義太夫とは義太夫節の略で、浄瑠璃と呼ばれる語りものの代表的流派です。貞享元（1684）年に初代竹本義太夫が創始しました。三味線に合わせて物語を語って聞かせる芸能です。義太夫節を語る人を「太夫」と呼びます。腹式呼吸で発声し、登場人物の思いや物語の情景を表現するものです。本展示では義太夫で用いる袴や見台、床本と呼ばれる見台に置く台本などを展示します。



また、忠臣蔵に関係したグッズも披露いたします。大石内蔵助が世間の目をあざむくために、京都の撞木町で遊興する場面を描いた掛軸や、山科の閑居と討ち入りの際に内蔵助が差していた刀の柄に彫られていたという漢詩を染付にした煎茶碗、山鹿流の陣太鼓をモチーフにした文鎮や鈴、このたびポポロで上演される仮名手本忠臣蔵の六段目を描いた錦絵、昭和 50（1975）年に放映された大河ドラマ『元禄太平記』の記念皿、本町・宗光寺で開催されていた義士祭のポスターなどです。

三原は歴史的にも忠臣蔵と大変ゆかりのあるまちです。「忠臣蔵のなりたち」という小冊子も会場で無料配布いたしますので、ぜひ資料館へお立ち寄りください。

(右) 芝居で有名な討ち入り装束 個人蔵

## 資料館マメ知識 「仮名手本忠臣蔵」とは？

元禄 14 (1701) 年 3 月 14 日、江戸城内・松の廊下で赤穂藩主・浅野内匠頭が高家筆頭・吉良上野介に刃傷に及びました。内匠頭は殿中で刀を抜いた罪で即日切腹、赤穂藩は改易。一方、上野介は眉間と背中に傷を負いましたがお構いなし。この裁きに対し、亡き主君の恨みを晴らすべく元禄 15 (1702) 年 12 月 14 日、大石内蔵助以下、元赤穂藩の家臣 47 名が吉良邸に討ち入り、上野介の首級をあげました。その後赤穂浪士たちは幕府の裁決を待ち、元禄 16 (1703) 年 2 月 4 日、寺坂吉右衛門を除く 46 名は切腹を命じられました。この事件を歴史的には「赤穂事件」と呼びますが、いつの間にか「忠臣蔵」と呼ぶようになったのは、松の廊下刃傷から 47 年後の寛延元 (1748) 年に、並木宗輔・竹田出雲・三好松洛によって書かれた浄瑠璃や歌舞伎の名作『仮名手本忠臣蔵』の影響でした。なお、『赤穂浪士』と題されたものは昭和 3 (1928) 年から昭和 4 (1929) 年に出版された大佛次郎の作品が最初といわれています。



『仮名手本忠臣蔵』という題ですが、意味は諸説あり、「仮名手本」は 47 士といろは 47 文字を符合させたもの、「忠臣蔵」は忠臣が蔵にたくさん入っている、蔵は内蔵助を意味するというもの、いろは歌を 7 字区切りにし、その一番下の字を並べると「とかなくてしす」(咎無くて死す) という言葉になるなどです。忠臣蔵を上演すると必ず大当たりということから“忠臣蔵は独参湯”，つまり不況に効く特効薬などと呼ばれて、最も上演頻度の高い作品となりました。全 11 段で構成され、通しで上演すると 1 日かかります。よって一般的な公演では好ましい段だけを上演することが多いです。また、通しで見るとよくわかりますが、雪月花・季節のめぐりを順々に盛り込まれているところも日本人の心に響く所以のひとつと言えるでしょう。ポポロの文楽公演もこの機会にぜひご鑑賞ください。

(左上) 仮名手本忠臣蔵 六 歌川国明 画

(左下) 仮名手本忠臣蔵 佐々木琮雅 画

2 点とも個人蔵

ポポロ文楽公演記念

### 「義太夫と忠臣蔵グッズ展」

会場 三原市歴史民俗資料館 1 階ロビー

会期 平成 25 年 6 月 26 日 (水)

～ 7 月 14 日 (日)

9 : 30 ~ 17 : 00

※ 会期中無休

発行 平成 25 (2013) 年 6 月 18 日

〒723-0015 三原市円一町 2 丁目 3-2

三原市歴史民俗資料館

TEL 0848-62-5595

※本冊子に掲載の写真などは、許可なく転用なされないようお願い申し上げます。